

P-229 肺癌患者のVEGFの臨床的意義

獨協医科大学病院 心血管肺内科

○松谷 肇、加藤士郎、木代 泉、長谷達也
岡本慎吾、町田 優、原沢 寛、中元隆明
金子 昇

VEGF (vascular endothelial growth factor) は、悪性腫瘍の増殖や転移に密接に関連した血管新生因子である。今回我々は、肺癌患者の血漿と胸水中のVEGFを測定し臨床的意義について検討した。

対象は健常者20例、未治療の進行性肺癌患者28例、肺癌の治療を行った10例、良性肺疾患患者35例である。方法は、血漿と胸水のVEGFをELISA法によって測定した。

未治療進行性肺癌患者の血漿VEGFは、他の疾患群より5倍高く($P < 0.01$)、未治療進行性肺癌患者以外の疾患群では、血漿VEGFに統計的な有意差は認めなかった。

進行性肺癌患者5例の胸水中のVEGFは活動性の重症肺感染症患者2例より30倍高かった。肺癌患者のVEGFは、臨床的進行度の指標となるばかりでなく良性ならびに悪性胸水の鑑別に有用であると考えられる。

P-231 胸膜悪性中皮腫におけるMatrix metalloproteinase (MMP)の免疫組織学的検討大阪医科大学第二病理学教室¹、兵庫県立成人病センター病理²、○平野 博嗣¹、吉井 康欣¹、岡田 仁克¹
森 浩志¹、指方 輝正²、

【目的】がん細胞の浸潤性増殖や転移は、周囲組織および血管基底膜の分解によっておこり、MMPが関与している。しかし、悪性中皮腫とMMPとの関連については未だ報告されていない。今回、胸膜原発悪性中皮腫におけるMMPの発現について免疫組織学的に検討した。

【方法】検討した15症例の内訳は50~75歳(平均62.3歳)で、男性13例、女性2例であった。アスベスト暴露歴は8症例にみられ、いずれも10年以上の長期間であった。組織型では上皮型8例、肉腫型3例、混合型4例であった。予後追跡調査が可能だった9例中、7例が1年以内に死亡していた。切除組織切片についてMMP-1、2、3、7、9のモノクローナル抗体を一次抗体として免疫染色を行い、上皮型成分、肉腫型成分ごとに陽性細胞数を半定量的に評価した。

【結果・考察】MMP-1は上皮型で12/12症例、肉腫型6/7に強く発現した。MMP-2は上皮型8/12、肉腫型4/7に発現し、MMP-3は上皮型5/12、肉腫型2/7、MMP-7は上皮型5/12、肉腫型2/7に弱い発現がみられた。MMP-9の発現率は上皮型10/12、肉腫型6/7だった。MMPのどのサブクラスとも上皮型に陽性細胞が多い傾向があった。胸膜悪性中皮腫の予後の悪さにMMP(特にMMP-1、2)の関与が示唆される。

P-230 原発性肺癌患者における血中組織因子の検討

三重大学第三内科

○小林哲、田口修、油田尚綏、安井浩樹、畑地治
小林裕康、E.C.Gabazza、足立幸彦

【目的】腫瘍の成長や血管新生に関わっているとされるTissue factor (TF)に関して、原発性肺癌患者においてその血中濃度を比較検討した。

【対象と方法】コントロール8例、肺癌27例(non-small 18例, small cell 9例)。そのうち化学療法に対しての反応あり15例、なし12例に分け比較した。TFの測定はELISA法でおこなった。

【結果】肺癌例(1234.3±364.1 pg/ml)ではコントロールに比較して有意に高かった($p=0.04$)。また、non-responderはresponderに比較して有意に高かった($p=0.03$)。

【結論】TF高値例は化学療法に抵抗性を持つ可能性が示唆された。

P-232 肺癌組織におけるmatrix metalloproteinase 1 (MT1-MMP)の発現

防衛医科大学校病理学第一講座

○山村 剛、熊木史幸、広井禎之、中西邦昭、河合俊明

【目的】MT1-MMPはMMP2の活性化酵素であり、活性化MMP2は癌の浸潤、転移とよく相関するといわれている。今回我々は、肺癌においてMT1-MMPの発現の有無と臨床病理学的因子との相関を検討した。

【方法】手術的に切除された原発性肺癌のホルマリンパラフィン材料65例(扁平上皮癌33例、腺癌24例、大細胞癌8例)を使用し、MMP2及びMT1-MMPについてin situ hybridization法及び免疫組織化学染色でmRNA発現及び蛋白発現を検索し、臨床病理学的因子との相関を統計学的に解析した。

【結果】MMP2及びMT1-MMPのmRNAはほぼ全例で発現を認めた。腫瘍細胞及び腫瘍間質ともにMT1-MMPの発現とMMP2の発現がmRNAレベル及び蛋白レベルで相関していた($p=0.01, p<0.01$)。予後を含めた臨床病理学的因子との相関は見られなかった。

【結論】MT1-MMP及びMMP2の検索は、肺癌診断の補助手段になりうると考えられた。